

令和5年度決算概要について

令和5年度決算の概要を取りまとめましたので、お知らせします。

1 令和5年度決算概要

(1) 令和5年度決算のポイント

ア 一般会計の規模

歳出総額は5,024億8,300万円となり、対前年比で205億300万円、3.9%の減となった。

歳入・歳出ともに過去4番目の規模。

歳入総額	5,062億8,300万円
	(対前年度比 △235億7,600万円、△4.4%)
歳出総額	5,024億8,300万円
	(対前年度比 △205億 300万円、△3.9%)

イ 実質収支の確保

一般会計の実質収支は、歳入において、市税が予算に比べ減収となったものの、歳出において、効率的な予算執行に努めた結果、28億5,100万円を確保。

(令和4年度：55億6,500万円)

ウ 財政の健全性の維持

社会保障関係経費の増等に伴い、財政調整基金残高は対前年度比21億円の減となる一方、全会計市債残高は対前年度比151億円の減となるとともに、基金借入金残高を着実に削減し、対前年度比20億円の減となるなど、「千葉市中期財政運営方針」を踏まえた財政運営に努めた。

表1 財政調整基金残高の推移

(単位：億円)

区分	5年度	4年度	3年度	2年度	元年度
財政調整基金残高	149	170	190	128	89
対前年度増減額	△21	△20	62	39	13

表2 市債残高(全会計)の推移

(単位：億円)

区分	5年度	4年度	3年度	2年度	元年度
年度末残高	9,567	9,718	9,626	9,701	9,732
対前年度増減額	△151	92	△75	△31	△59

表3 基金借入金残高の推移

(単位：億円)

区 分	5年度	4年度	3年度	2年度	元年度
基金借入金残高	157	177	197	237	247
対前年度増減額	△ 20	△ 20	△ 40	△ 10	△ 10

(2) 健全化判断比率等

ア 健全化判断比率

実質公債費比率については、対前年度比で横ばいとなり、将来負担比率については、対前年度比で低減。

実質公債費比率 10.7% (対前年度比+0.1P、早期健全化基準 25.0%) 将来負担比率 122.4% (対前年度比△2.6P、早期健全化基準400.0%)

イ 資金不足比率

対象となる6会計でいずれも発生していない。